

## 第8編 色大島紬の抜染法

前記第6編及び第7編は合成染料での浸染法や摺込染で柄模様を染出す方法であるが、この項は合成染料で染色した緋ムシロを抜染して緋模様を出す方法である。

### 第1章 色緋ムシロの部分抜染法

この抜染は先に可抜染料で染色した後、緋締めした緋ムシロを合成染料で黒色に染色した後、部分解きし、その部分を抜染し別の色彩を施す等の加工法である。この抜染法は、緋の地色も合成染料で染色しているのので、この地色まで脱色される恐れがあること。

したがって先に染色する染料は白抜できる染料であること。又、緋ムシロの地色を染色する黒色は逆に、不拔染料で染色するのがこの染色及び抜染法の条件である。

1例を記すと

#### ア 染色法

総糸をシリヤスファスト、ブルー3GLの1.3%で染色した糸を、整経。糊張り。緋締めした緋ムシロを、カヤカラブラック2RL・10%に酢酸・2%を加えた液で緋ムシロを十分もみ染した後、その染液で8～10分間煮染し、乾燥後蒸熱処理して部分解きする。

#### 備考

- 上記のブラックや酢酸の量がやや多いのは、濃厚に染色するため。
- 十分もみ染するのは、十ノ字を良く切らして染色しないと、部分抜染で十ノ字がなくなる恐れがあること。
- 煮染が長いのは、地色を濃厚に十ノ字も切れて染色するためである。
- 地染後蒸熱処理するのは、後の部分抜染に堪える堅牢度を高めるため、この処理が必要である。

#### イ 部分抜染法

抜染する部分を水で十分糊抜きした後、次の方法で抜染する。

- ・ 8疋分タテ緋、1仕切を部分抜染するとして

水 100ℓ に	ヒドロサルフホワイトA	100g
	アミラジン	20cc



度染色した後、整経、緋締めする。

#### イ 整経、緋締め

この抜染加工は地色を白く、締めた緋は先に染色した色が、大島紬の緋になるように。整経は2手取り、緋締めは80番ガス綿糸、5モトで堅く緋締めすること。

#### ウ 抜染

黒染めの緋ムシロを抜染するとして、糊抜き水洗いした緋ムシロを1g/lのマルセル石鹼液で煮沸7分間、脱色した後水洗いし、次の本抜染に移る。

・本抜染（緋タテ1仕切を抜染するとして）

水100lにヒドロサルファイト、300g（3g/l）。アミラジン50cc（0.5g/l）の割で抜染する。

その方法は、100lの水を90℃程度にした後、上記のヒドロサルファイトとアミラジンを加え攪拌した後、先に石鹼脱色した緋ムシロを入れ攪拌して抜染する。

Ⓧ この場合、アミラジンは先に加えておいても良いが、ヒドロサルファイトは液が90℃になってから、即ち緋ムシロを入れる直前に加えること。又ヒドロサルファイトは質の良いものを使用すること。

#### エ 最適な抜染の程度

この加工は抜染が過ぎると、締めた中の色まで抜染され、緋が小さくなるほか、フスの表面になっている糸まで抜染されるので、製品になってから柄がはっきり出ない紬となる。それでこの緋ムシロの最適な抜染を調べる方法は抜染中、緋ムシロを湿ったまま明るい方向にすかして見る。この場合地色が白く抜染されている場合は、抜染が過ぎており、又地色に黒い部分があるのは、抜染不足である。最適な抜染は白地になる部分が、淡雲の程度の白さになった時が最も良い抜染で、この頃抜染液から緋を取出すこと。

オ 黒色の抜染白紬を造る場合は、可抜性の黒色にダイレクトダークグリーンBAの染料を0.5%混合して染色すると抜染が容易であるほか、地色が特に白く抜染されること。

カ 以上は黒緋ムシロについて記したが、黒又はエンジ色のほかは石鹼で脱色することなく、直ちにヒドロサルファイトに少量のアミラジンを加えて抜染して良い。

キ この種の染料は一般的に堅牢な染料ではないので、このままでは湯どうしによって白場を汚染するとか、日光に不堅牢になるので、緋総解き乾燥した後、蒸熱で30分程度処理し、さらに0.5g/lのシルクフィックス3Aの水溶液に浸漬後、清水で洗って仕上げること。

## 備考

### ア この抜染で注意する点。

- 白抜できる染料で染色すること。
- 抜染する糸染は15分程度と普通より短く煮染すること。
- 黒色染は、白抜できるダークグリーンを0.5%程度混合した方が良い。
- 黒やエンジ色等濃い色は、石鹼脱色してからハイドロ抜染（本抜染）したほうが良い。
- ハイドロサルファイトは、質の良いものを使用すること。
- ハイドロサルファイトは抜染する温度になってから加え、間をおかないように絣を抜染液に入れること。
- 抜染前の糊抜きは十分すること。
- 抜染温度は80～85℃と高い温度ですること。
- 不拔染料がないよう、鍋を十分洗ってから、染色や抜染すること。

### イ この抜染で締めた中まで脱色される原因

- 絣締め用糊粘度が低かった場合
- 絣締めが弱かった場合
- 抜染前の糊抜きが過ぎた場合
- ハイドロサルファイトが多く、高い温度で抜染した場合。
- 抜染液にアミラジンを多く入れて抜染した場合。
- 本抜染前の石鹼脱色が過ぎた場合。
- 最適な抜染程度を見誤った場合。

## 第3章 摺込による色絣ムシロの部分抜染法

この抜染は可抜性の合成染料で染色した絣ムシロの地色を部分的に抜色して、白または別の色を摺込みするとか、さらには摺込違いの修正又は、地糸を部分的に抜染してぼかし等の色大島紬を造る場合等に、この方法がおこなわれる。

### ア 抜染糊液の調製法

ロンガリットC、又はデグロリンSコンク15gを水で溶解した後、糊を加えて100ccの摺込に適する粘度に調製する。

## イ 摺込み及び抜染法

ある部分を抜染する場合、その部分にこの抜染液をムラなく紺ムシロの裏、表に摺込みした後、他の部分に糊を付着させないように新聞紙2枚で、紺ムシロを挟んでおくこと。この場合、紺ムシロを乾燥したものに摺込むこと。

## ウ 蒸熱処理（抜染）

上記(イ)で摺込んだ糊が半乾きの時、強力な蒸気で15～20分間蒸すと、上記(イ)で摺込んだ部分だけ白抜される。このようにしてムラなく抜染されたら、大量の水で十分洗った後、ソーピング、水洗いして仕上げる。

## エ ムラ抜染された時の修正法

上記(ウ)によって、ムラ抜染されたら、その部分を十分洗った後、乾燥後(ア)で調製した抜染糊液を抜染されなかった部分に摺込みし、糊の湿気があるうちに、強力な蒸気で15分間位蒸した後水洗いする。

## 備考

- この抜染加工は、必ず白抜される染料で染色すること。
- ロンガリットやデグロリンは水で溶解すること。
- 抜染糊は他の部分に付着させないようにすること。
- 抜染糊が白くなるのは効果がある。
- この抜染の蒸し時間が長くなると、抜染糊や紺が水分を含み、ほかの部分に移動するので、抜染糊の粘度や紺の乾燥状態や蒸し時間に注意すること。
- つぎに抜染した部分に色彩を施す（摺込染）時は、その部分に抜染糊が残っていると、目的の色に染色されないばかりでなく、ムラ染になるので、抜染部分は抜染剤が残らないように十分洗い、又十分乾燥した紺に摺込み、抜染することが大切です。
- 又この補正抜染を2回目で成功させないと、3・4回抜染すると、白抜されないことがあるので、この点も注意のこと。